

初勝利誓う 十勝3戦士

スマイルJ、格上と勝負



「チームのためになるなら何でもやる」と献身的な働きを誓う小野粧子

FW 小野 粧子 36

頼りになるベテラン



「チームのためになるなら何でもやる。(ゴール数などの個人目標はない。皆に勢いを与えるプレーヤーと、一人ひとりとのコミュニケーションも大事にしていきたい)。4度目の挑戦で初の五輪の氷上に立つベテランは、これまでつかめそうで届かなかつた夢舞台へ思いをはせらる。」
158cm、59kgのチームでも小柄な部類に入る。それでもエンス級でのキープ力に、力強いショート、労を惜しまない献身的な運動量を誇り、どんな練

女子アイスホッケー

8カ国が出場。世界ランキング順に2グループに分かれた予選リーグ(1次リーグ)では、日本(9位)は下位のBグループ。米国(1位)やカナダ(2位)などのAグループの4チームとBの上位

米国など8カ国出場

韓国以外は上位ランク

2チームが決勝トーナメントに進む。日本より下のランクは韓国(22位)のみ。日本は10日にスウェーデン(5位)、12日にスイス(6位)、14日に韓国と対戦する。開幕2戦で1勝できれば、17日の準々決勝進出の可能性が高まる。

動画あり
電子版



体格を生かしたシートストップを武器に、代表に定着したGK近藤真衣(左)。出場を見据えて「しっかりと準備をする」と意気込む

挑戦者の気持ち貫く

GK 近藤 真衣 25



女子アイスホッケー日本代表「スマイルジャパン」の一員として、十勝3戦士として初めて3選手が平昌五輪(2月10日競技開始)の舞台に立つ。フルタイムシステム御影グレッグズのFW小野粧子(36)、GKの近藤真衣(25)、フルタイムシステムII、帯広ディエースのDF志賀葵(18)、帯三條高(3年)はいずれも初出場。チームの目標は、五輪初勝利にとどまらないメダル獲得だ。最年長の小野はスタッフや選手からの信頼も厚い。志賀は最年少らしく挑戦者の姿勢を貫き、近藤は残り1カ月もさらなるレベルアップを図り、レギュラー戦線に殴り込む闘志を見せ

(北雅貴)

ソチ五輪が終わった後の2014年の6月に日本代表合宿に招集された。身長166cmの体格を生かしたショートストップを武器に、15年の秋以降は代表合宿や清水町に戻ってからのトレーニングで下半身が安定。座った状態での動きがぶれなくなってきた。しっかりとバツを見ることで、リバウンド対応の速さ、ポジショニングを意識して練習している。

藤本那菜(28)、Vorteks Sapporo、小西かね(22)、西武(2)との厳しいGK争いで、ベンチ入りもままならず落ち込んだ日々もあった。今季は現実を受け入れ、前向きな気持ちで取り組んでいる。「自分はいつ試合に出られるか分からない立場。しっかりと準備しておくことが大切。限られたチャンスを生かしたい」と、本番直前まで挑戦者の気持ちを貫くつもりだ。

ソチ五輪は家族と一緒にテレビで見ていた。2015年に代表入り。雪の上の存在だった選手たちとのプレーは緊張しつづけだったが慣れてきた現在は氷上で意も示せるように。持ち味のFWへのパス出しを随所で見せるようになった。



「最年少」将来性豊か



チーム最年少、18歳の志賀葵。「失敗を恐れずに全力を尽くす」と、チャレンジ精神で大舞台へ臨む

DF 志賀 葵 18

同じ日本代表DFの床重矢可

(23)、SODEIBUプリンセスラビッツを尊敬する。「リード性があつて、年齢に関係なくやるべきことをやっている」と手本にしている。

昨年2月の五輪最終予選では

かつた悔しさと半々だった。

スマイルジャパンの指揮を執る山中武司監督(46)は、志賀

に対し、自分が日本代表で何度も挫折した経験を基に期待を寄せた。「悔しさを味わった選手は勝負の際、こじぞういう場面

で強いていた」と語る。